

.....

クラブ管理運営委員会 活動計画

常任委員長 溝渕 真澄

■例会親睦委員会

委員長 西野 勝弘 副委員長 松山 隆雄

■友好クラブ担当

委員長 澁谷 直樹

■プログラム委員会

委員長 中村 文子 副委員長 柳谷 和幸

委員 稲吉 正美 蛭谷 康夫 江田 昌弘 大草 洋 大谷新一郎
小林大二郎 須坂 知恵 田島 敏秀 山下 洋志

《方針》

- ① 中澤会長方針に基づきクラブの活性化を目指します。
- ② 全員参加で楽しい例会運営を目指します。

《目標》

- ① 移動例会・夜間例会・地域活動の出席率向上を行う。

《計画》

- ① 移動例会・夜間例会の楽しい企画を計画する。
- ② 友好クラブとの交流を計画する。
- ③ 年間を通して会員が興味を持てる卓話を計画する。

クラブ広報委員会 活動計画

常任委員長 奥橋 園子

■会報委員会

委員長 青木 亜也 副委員長 桑田 俊夫

■公共イメージ委員会

委員長 徳久 京子 副委員長 栗林 一郎

委員 江田 昌弘 岡田 尊明 嶋津 義人 須坂 知恵
鈴木 雅朗 中山 智晃 中山 義夫 山田 修

《方針》

- ① ロータリーの公共イメージと認知度の向上に努める。
- ② 当クラブの活動を内外に発信する。
- ③ 週報及びホームページの内容の充実を図るとともに、情報を提供する。

《目標》

- ① ロータリークラブの存在を一般市民の方に理解をいただくための活動に重点を置き、認知度の向上を目指す。
- ② ウェブサイト、ソーシャルメディア、出版物等を通じて情報を発信する。
- ③ 分かりやすく読みやすい週報及びホームページを目指す。

《計画》

- ① 会員の活動や地域社会への参加を通じて、公共イメージ向上に努める。
- ② 認知度が向上するツールとして、市の広報誌なども含めたマスメディアを活用し、当クラブの活動を広報する。
- ③ 週報を紙媒体とペーパーレス二本立てとし、配布方法を選択できるようにするための準備を行う。
- ④ 定期的に更新、修正を行い活用できるホームページとする。

会員組織委員会 活動計画

常任委員長 中山 義夫

■会員増強委員会

委員長 鈴木 晴澄

副委員長 佐伯 外次

委員 松山 隆雄

■会員選考・職業分類委員会

委員長 岸 勲

副委員長 阿部 昭男

■ロータリー情報委員会

委員長 足立 旬一

副委員長 蛸谷 康夫

《方針》

- ① 地区方針及び会長方針に基づき、全員で会員増強に取り組む。
- ② 職業分類の未充填部門の入会候補者を発掘する。
- ③ 情報委員会を通じて最新のロータリー情報を広める。

《目標》

【長期】

- ① 3年以内に会員数60名を達成する。
- ② 入会3年未満の会員にフォローアップを続ける。
- ③ 入会候補者に対して多面的に勧誘を行う。

【今年度】

- ① 年度内に会員数を56名以上に増強する。
- ② 会員増強活動の進捗をクラブ全体で共有する。
- ③ ロータリー情報委員会を通じて、ロータリー用語や三大義務への理解を促す。

《計画》

- ① 女性会員と40歳未満の会員候補者を探し、勧誘する。
- ② 会員増強リストを共有し、進捗を確認する。
- ③ 多様な職業の入会候補者が入会しやすいように職業分類を見直す。
- ④ メーリングリストを活用したロータリー情報の周知体制について検討する。
- ⑤ ロータリー情報委員会を2回以上開催する。

基金プログラム委員会 活動計画

常任委員長 中川 真澄

■ロータリー財団委員会

委員長 竹村 克二

副委員長 月森 清一

■米山奨学委員会

委員長 一ノ瀬 裕

副委員長 黒河内三郎

《方針》

- ① ロータリー財団への参加と財政的支援と事業に協力する。
- ② 将来母国と日本の架け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を支援する。

《目標》

会員が一人当たりの目標額（財団 200 ドル以上、米山 20,000 円以上）を達成するよう、全会員に協力をお願いする。

《計画》

財団月間（11月）米山月間（10月）に財団学友、奨学生、地区委員の卓話を実施し、基金プログラムへの理解を深める。

奉仕プロジェクト委員会 活動計画

常任委員長 中村 好孝

■社会・国際奉仕委員会

委員長 須原 敏仁

副委員長 市川 孝幸

委員 岩崎 正三 大貫 恭嗣 松井 克之

■職業奉仕委員会

委員長 鈴木 昌彦

副委員長 中村 辰雄

委員 嶋津 義人 隅田 勝也 山崎 辰男

■青少年奉仕委員会

委員長 岩本 勉

副委員長 杉崎 信一

委員 渋谷 勝 古木益美左 八木 松男

《方針》

- ① 地域社会に変化を生み出すための奉仕を实践する。
- ② 公共イメージの向上を意識した奉仕活動を行う。
- ③ 各自が奉仕活動の主役であることを意識する。

《目標》

- ① 地域にとって必要な存在になる。
- ② 青少年の育成を図る。
- ③ 自分の強みを意識する。

《計画》

- ① 地域社会のニーズに応える奉仕活動を行う。
- ② 野球教室、サッカー教室を地元企業とタイアップして開催する。
- ③ 職業で得た知識をもとに、学生に対して出前授業を行う。